

全国初!? 地方公共団体のための ワーケーションプログラム実施に向けて

一般財団法人地域活性化センター企画・人材育成グループ

副参事

能登村井塚本
川上上上 悠太
亜和美奈

えひめ地域活力創造センターは、「一般財団法人地域活性化センター」と相互の人材交流などを通じた地域の活力創造や地域づくりの中核人材の育成を図ることを目的に、令和4年4月13日、連携協定を結びました。今回はその活動の一端である「ワーケーション事業」をご紹介します。

はじめに

一般財団法人地域活性化センター（以下「センター」という。）は、活力あふれ個性豊かな地域社会を実現するため、ひとづくり、まちづくりなどの地域社会活性化のための諸活動を支援し、地域振興の推進に寄与することを目的として、昭和60年10月に全国の地方公共団体と多くの民間企業が会員となつて設立された財団法人で、平成25年4月に一般財団法人へ移行しました。

都道府県、市区町村、民間企業など、計1927団体が会員となっております。（令和4年9月1日現在）

当センターでは、情報誌「地域づくり」による最新の地域づくりの情報提供、地域の抱える様々な課題を取り上げた調査研究、日本各地のユニークなイベントを表彰する「ふるさとイベント大賞」の実施、地域イベントなどを通じた地域づくりに対する助成など、地域の活性化に資する各種事業を実施しています。

ワーケーション（テレワーク）やフィールドワークを実施し、地域課題を実践的に学ぶとともに、地域住民との交流を行うこととしました。

第1回・6月ワーケーションを体験して

その中で、当センターでは今後、テレワーク施設等を活用した「全国の地方公共団体のための地方の学びの場づくり」の事業を展開しようとしており、その一つの手法として令和4年度から新規でワーケーション事業を推進することになりました。



ハイブリットによる最終報告会（第1回）

地方創生に向けた更なる人材育成を進めるため、地方創生の最前線である地域において、まずはセンター職員がワー



地域住民によるイベント「菜月自然農園の朝ピクニック」への参加（第1回）



南予サインでのテレワーク（第1回）

益財団法人えひめ地域活力創造センターにご協力いただくことになりました。両者とも第1回の運営にご協力いただいていたとともに、令和4年4月に当センターと地方創生等に向けた人材育成に関する連携協定を締結しています。そのことから、連携事業の一つとして、第2回のワーケーションプログラムを3者共同で実施することになりました。

第2回・12月ワーケーションを体験して

第2回は、令和4年12月に2週間、新たにセンター職員2名と参加を希望した地方公共団体職員3名の合計5名で、愛媛県伊予市を中心として実施しました。また、第1回を体験したセンター職員2名は、前回の経験を生かし事業の運営を行いました。



ワーケーション専門家による講義（第2回）



移住者が開業した「酵素まる」にて米ぬか酵素風呂体験（第2回）

ワーケーションの専門家による講義や、地域で精力的に活動されている方の話を伺うほか、自分の持つてきた仕事ができる自由時間などの内容としました。

地域住民や参加者同士の交流時間

を多くしたこと、参加者からは「ワーケーションに関する知識を得たほか、地域住民との交流や地域の視察を通して自身の考え方を直す良い機会になった」というような好評をいただきました。



ミュージゼ灘屋にて地域住民との交流（第2回）

また、今回ワーケーションを体験したセンター職員4名は「ワーケーションにおける地方公共団体の役割を改めて考えるきっかけとして、全国の地方公共団体職員等にワーケーションを経験してほしい」との共通認識を持ち、令和5年度のワーケーションプログラムを企画しています。

令和5年度開催予定のワーケーションプログラムについて

今年度のワーケーションで体験したことを生かし、令和5年7月（予定）には全国の地方公共団体職員等を対象にワーケーションに関する研修の開催を考えています。

ワーケーションを実際に体験し、生活圏外の地域で働くことで多文化理解を深めること、また、既にワーケーションを事業化している地方公共団体はそのブラッシュアップのため、これから検討する地方公共団体は効果的な事業考案・立

案をするための機会とすることを目的としたプログラムとする予定です。

さらに、地域住民や全国から集まる受講者との交流を通して、異なる価値観やノウハウに触れることで互いの創造性が高まる効果も期待できます。

ワーケーションを切り口とした移住や関係人口創出に関する取り組みや、ワーケーションを通して地域との関わり方を学べるようなプログラムを検討しています。

終わりに

ワーケーションとは、ただ自分の生活圏を出てテレワークをすることではありません。自分の知らない土地で数日から数週間暮らし、その地域の文化や人に触れ、互いに交流することで、これまで自分の中になかった新しい価値観やノウハウを見つけるための「価値創造活動」だということを、ワーケーション体験を通して学びました。

地方公共団体の役割とは、テレワークができる施設やインターネット環境などのハード面の整備だけではなく、地域にある文化や地域と関わりをもつて活動していきたい住民の掘り起こしと、それら資源とゲストを結び付けることだと考えます。

来年度開催時は、ぜひ地方公共団体職員やワーケーション事業に関心のある皆様のご参加をお待ちしております。